

山行報告

■「山の日」制定10周年記念山行 高御位山

●日 程：8月11日(日)

●参加者：1班：L 乙坂 SL 三木(悦) 坂本 春本 船本 山下

2班：L 小田 SL 上田 一瀬 佐野 橋本(健)

3班：L 須増 SL 平井 黒本 徳本 安田

●行動記録

1班・2班：長尾新池 7:10 発～中間鉄塔(7:30 着)7:40 発～高御位山(8:05 着)8:20 発～市ノ池分岐 9:00 発～馬ノ背分岐(9:25 着)9:30 発～百間岩上(9:55 着)10:10 発～鹿嶋神社 10:35 発～長尾新池(11:10 着)

3班：長尾新池 7:10 発～高御位山(8:25 着)8:40 発～市ノ池分岐 9:15 発～鷹ノ巣山(9:45 着)10:05 発～馬ノ背登山口(10:45 着)10:50 発～長尾新池(11:16 着)



◆「山の日」制定おめでとう～♪

船本

1月に入会して夏に登るのは慣れていない私。でも、せっかくの記念日だからと、この山行に参加しました。駐車場から登山口へ向かう途中でハス池があって、きれいなピンク色の花が咲いています。内心、ビクビクしていた私を励ましてくれているみたい。

“暑い一日になりそうだけど、楽しみだ。”朝のうちに登ったのかな？下りてくる人とすれ違いました。家族には暑いのに大丈夫？と心配されていたので、「あんたも好きね～。」なんてツッコミたくなります。

長尾登山口から登るのは初めて。“さあ、登るぞ。”30分ほどで休憩。すぐに口の中が渴きます。しばらく歩いていくと、「あ、もう山頂が見える！」こちらから登ると、近くに感じました。リーダーさんが陰を見つけて歩いてくれ、そのあとに続きます。後ろからサブリーダーさんがこまめに水分補給の声をかけてくれます。“ありがたい。”山頂近くで、犬の散歩のご一行さまに追い抜かされました。「かわいいワンちゃんたち、元気だな～。よし！私だって、まだまだ！！」

「やったー！着いた。」高御位山神社へ参って、休憩。冷たいゼリーなどをいただき生き返った気分。

“さて、行きますか。”途中で「大丈夫ですか？ここが下りるチャンスですよ。」と呼びかけてくれましたが、誰も下りることなく鹿嶋神社方面へ。途中で顔を上げると岩肌の急斜面が見えて、「うわ～、すごい斜面。あんなとこ、登る人がおるのかな？」と聞いていたら、いつの間にか、そこを自分が登っていてビックリ。1回だけ同じルートで下りたことがあるけど、忘れていました。気がついたら下って、またいつの間にか上って…を繰り返し、9時を過ぎるとかなり暑くなってきました。熱中症になりそうじゃないかと、「指先はしびれてないかな、頭痛はしてないよな。」と自分に確認しながら進みました。最近、オリンピックを見ていたから、つい

「がんばるって素敵」と思ってしまうけど、こういうときに昭和のド根性を出すのは間違いですよね。自分に「無理せず、ゆっくり」と言い聞かせます。展望ポイントでひと休み。トンボがいっぱい飛んでいました。天気がいいから明石海峡や海、島など遠くの景色がよく見えました。“気持ちいいな～。”最後の上りが終わって、また休憩。あとは下るだけです。ここで靴紐を結び直すといいことを教えてもらいました。全体的にぎゅっと引っ張って結び直すと、全然違う！歩きやすかったです。“ありがたい。”

鹿嶋神社の参道のお店は閉まっていますが、かき氷を食べ損ねました。残念。でも、みなさんと「山の日」制定10周年記念を祝うことができ、充実した一日となりました。そしてまたひとつ、山行の経験が増えて、とてもうれしいです。お世話になり、ありがとうございました。

◆「山の日」制定10周年記念登山に参加して

佐野

季節は立秋となっているが、気温は命にかかわる危険だと気象庁では言っている中、何処までついて行けるか心配でしたが完走出来これで夏山にも行ける自信ができました。

長尾新池 7:00 集合 3 班に分かれ、ラジオ体操でストレッチを済ませ 7:15 出発！途中蓮池のハスの花が咲き乱れ山行の応援をしてもらった様です。



7:35 に鉄塔で小休憩 8:00 に分岐 8:10 高御位神社に到着(10分休憩)8:40 オアシス 9:00 市の池分岐 9:25 馬の背 10:00 奥山 10:35 鹿嶋神社 11:10 長尾新池着。

約 4 時間でしたがとても暑かったんですが休憩を小まめにとって頂いたお陰で完走する事が出来ました。ありがとうございました。

◆山の日を高御位山へ

安田

毎日暑い日々が続いていて、暫く山には行ってない。土曜トレも 9 時集合でもうすでに暑い！行きたくないと思っていてエアコンの効いている家から中々抜け出せませんでした。今回の集合時間が 7 時なので「行ってみようかな」と思い参加しました。参加者 16 名。沢山の参加者でした。話を聞くと、やはり私と同じく「中々エアコン部屋から抜け出せない」の話です。皆さん私と同じ考えで、体がなまってしまうので出て来ましたって感じでした。

まずは班分けで私達は 3 班です。U さんが作って下さった「10周年記念山行」の札を胸に出発です。暑いので予定より少し短めの山行になりました。長尾駐車場からいきなり山頂をめざします。登山口の池の蓮の花が満開で驚きました、美しかったです、お盆ですね～。長尾からの頂上をめざすのですが、7 時過ぎといえども太陽は既に暑かったです。

まずは順調に他のチームと付かず離れず歩いていましたが、一人、汗のかき過ぎでダウン！山頂まであと 3 分の 1 位の位置だったのでしょうか。回復までゆっくり待ちます。そこから山頂に着くと、「先ほど出発しています」とのお知り合いの方からの伝達で「先発隊はずいぶん待っていてくれたのだな」と知りました。私達のチームも「始めから無理をしない、しんどくなったら途中で下山」を話していましたので、落ち着いて行動できました。

今日は日曜日のはずなのに登山者がとても少ないと感じました。たしかに今日はすでにお盆休みで毎日登山の方もお忙しいのでしょう。さて鹿嶋神社方面へ進むのですが、やはり稜線も太陽が容赦なく照り付け背中が焼かれるようです。皆で「早く下山しよう。馬の背を降りてかき氷を！」でした。先発隊の位置は電話では、すでに百間岩の方に下山しているとの事。私達が馬の背を下山したら、先発隊と上手く出会いました。かき氷を食べに行きたいと話すと「全部のお店がお盆休み」と聞きガッカリしました。仕方なく長尾に駐車場へ行くのですが、暑い！アスファルトが焼けていて暑い。何とか駐車場へ戻った次第です。

とにかく無事下山できて良かったです、皆様お疲れ様でした。

■夏山登山① 立山縦走と弥陀ヶ原散策

●日 程：8月19日(月)～23日(金)

●参加者：L小田 SL上田 臼井 黒本 佐野 橋本(健) 福原 村上

●行動記録：

(20日)：室堂ターミナル(8:30着)9:10発～みくりが池温泉(9:25着)9:35発～室堂小屋～室堂山展望台(11:35着昼食)12:00発～立山自然保護センター(13:40着)13:55発～みくりが池温泉(14:10着)

(21日)：みくりが池温泉 5:05発～一ノ越(6:25着)6:45発～雄山(7:55着お祓い)8:30発～大汝山(9:00着)9:15発～大汝休憩所(9:20着コーヒータイム)9:45発～富士の折立(10:05着)10:15発～大走り分岐(11:15着)11:20発～真砂岳(11:25着)～(昼食)～別山(12:35着)12:50発～剣御前小屋(13:25着)13:40発～みくりが池温泉(16:00着)

(22日)：みくりが池温泉 7:30発～天狗平山荘(8:35着)8:55発～獅子ヶ鼻岩(10:40着)11:00発～立山荘(12:30着)

(23日)：称名滝バス停(9:50着)10:00発～大日登山口(10:20着)～称名滝展望台(10:25着)11:25発～大日登山口 11:30着～レストハウス称名(11:40着昼食)12:50発～称名滝バス停(13:00着)

◆室堂散策と立山縦走(2024.8.20～21)

村上

8月20日晴れ、9時25分みくりが池温泉に着き、荷物を軽くして室堂散策です。池巡りをし室堂小屋の展示を見学。風車のようになったチングルマの群生地やタテヤマアザミ、ヨツバシオガマ、ウサギギク等高山の花々に導かれるように室堂山展望台まで登り立山に連なる山々や、室堂の大地を眺めながらゆっくりと昼食タイム。室堂に戻り立山自然保護センターに立ち寄り立山に関するいろいろな情報を見る。特に気になったのは立山に入り込んだ外来植物。綺麗な花々の中に外来植物が侵入していて立山の生態系保全に苦慮している。14時過ぎには、みくりが池温泉に戻りチーズケーキとコーヒーでゆったりした時を過ごした。早めの温泉入浴と美味しい夕食で明日の登山に備える。

8月21日晴れ、みくりが池は鏡の様に山々を写しています。歩き出して1時間20分程で一ノ越にたどり着き、後ろ



立山の山々や、槍ヶ岳、穂高連峰、笠ヶ岳も一望、何度見てもため息の出る眺望です。急登に備えて一休み後ゴロゴロの岩の登りです。私は足元を注意しつつ、山々のその上に見えた富士山に感激。登り初めて1時間ほどの雄山頂上直下で荷揚げヘリコプターが接近しその場で待機指示があり、間近に荷揚げ作業を見学する。頂上では折角なので全員で山頂神社



でのお祓いを受け最後に万歳三唱をした。大声を出して身も心もスッキリした。鳥居の近くには、私の好きなイワギキョウが美しく咲いていた。大汝山までは30分、三点確保で岩を登り大汝山山頂に登り、狭い山頂で写真撮影後、大汝休憩所まで下った。ここは映画「春を背負って」のロケ地。ゆったりとコーヒータイムはとても嬉しい時間でした。富士の折立への登り下りも危険な岩の登山道が続き緊張の連続でしたが声をかけ合って前進。真砂岳も後で心残りにならないように山頂に立ちました。別山に向かう途中の見晴らしのいい所で昼食になる。宿の朝食弁当から大福餅を食べようとしたが餅が袋に引っ付いていて難儀して食べた。お腹を満たして一気に別山に登頂。圧倒的な美しさで剱岳が望めた。剱御前小舎に着いた時には後は下山と思うと気が楽になった。ゆっくり休憩後、長い雷鳥沢を下る。キャンプ場までたどり着きホッとしたが最後の急登は雷鳥沢ヒュッテ上までの階段。登りきった上でNさんグループと出会う。登山道で顔なじみの面々と出会うのも楽しいひと時でした。16時みくりが池温泉に到着。ゆっくりと温泉入浴、一日中晴天の日に元気に楽しく歩いて幸せでした。同行した皆さんに感謝！



◆立山縦走と弥陀ヶ原散策

福原

22日今日も天気は快晴。みくりが池温泉から昨日上った立山を見上げると少し雲が掛かっていました。今日のコースはみくりが池温泉から天狗平山荘、一の谷、立山荘まで約4時間の歩行予定です。みくりが池温泉から天狗平山荘までは木道がずーっと続いていて両脇には一面にチングルマが咲いていたのですが残念ながら綿毛になっていました。真っ白い花の時は素晴らしいだろうなと思いつつ綿毛も愛おしくなりました。他の高山植物も色々咲いていましたが、タテヤマアザミが一番最盛期でした。天狗平山荘からも木道が続いています。時々破損箇所があるが通行には支障なく歩けました。道中池塘が点在。木道をひたすら歩いていると急に谷底

まで下りる事になりました。鎖が設置されていてその鎖を頼りに岩場を越え、急坂を下って一の谷へ下りてきました。谷底の沢は水量が少なくほんの少しだけ水が流れていただけなのでさっと渡り立山荘の方へ今度は上って行きました。上りつくとまた木道が立山荘まで続いていました。楽ちんコースだと思っていたので一の谷の急坂は大変でした。

23日最終日も天気は快晴。立山荘から称名滝まで約4時間歩く予定でしたが、途中の八郎坂登山道が能登半島地震や大雨の被害を受け崩壊し通行止め。残念ですが予定を変更しバスとケーブルで立山駅まで下りてきました。今までの涼しい空気が一変、立山駅まで下りて来ると蒸し暑く富山市内の最高気温は38℃になると運転手さんが教えてくれました。立山駅から称名滝



まではバスで移動。近くまで来ると落差日本一の大瀑布(350m)は迫力がありました。残念ながら水量が少なくハンノキ滝は見られませんが、滝の水がミスト状になり身体を湿らせ気持ち良かったです。

立山のアルペンルートはツアーで通り抜けただけでしたが、アルペンルートを離れ素晴らしい景色を見る事ができました。また立山頂上、別山までの稜線からの素晴らしい景色が目に焼きついて忘れられません。

■夏山登山② 薬師岳から立山三山の縦走

●日程：8月16日(金)～21日(水)

●参加者：L島谷 SL高島 森本

●行動記録：

(18日)：いるかホテル 5:25 発～電鉄富山駅(5:35 着)6:01 発～立山駅(7:10 着)7:20 発～美女平(7:27 着)7:40 発～室堂(8:20 着)8:30 発～一ノ越山荘(9:40 着)9:50 発～富山大学立山施設(10:20 着)10:30 発～鬼岳東面(11:10 着)～獅子岳(12:05 着)～ザラ峠(13:25 着)13:30 発～五色ヶ原山荘(14:30 着)

(19日)：五色ヶ原山荘 4:00 発～ザラ峠(4:35 着)4:40 発～獅子岳(6:00 着)6:20 発～鬼岳東面(7:15 着)～富山大学立山施設(8:10 着)8:15 発～浄土山(8:35 着)8:40 発～富山大学立山施設(8:50 着)～一ノ越山荘(9:25 着)9:50 発～雄山(10:55 着)11:40 発～大汝山(12:10 着)12:18 発～富士ノ折立(12:30 着)12:35 発～真砂岳(13:30 着)～内蔵助山荘(13:50 着)

(20日)：内蔵助山荘 6:00 発～大走り分岐(6:20 着)雷鳥沢キャンプ場(7:50 着)8:00 発～みくりが池温泉(8:50 着)10:40 発～室堂ターミナル(11:00 着)

◆初めての立山

森本

(3日目：8/18) 昨夜は予定を変更し富山駅前で宿泊した。2段ベッドの山小屋気分のいるかホテルを出発し、アルペンルートで室堂へ向かう。富山電鉄・ケーブルカー・高原バスを乗り継ぎ室堂に到着。名水「立山玉殿の湧水」を補充して、一ノ越山荘を目指す。雄大なカール

を横目に登っていると山岳警察隊と出会い、昨日の子熊の件で立ち話となった。熊に出会うとクマよけ鈴は役に立たない、騒がないで静かにしておくこととのこと。隣の登山者によれば 3 mに近づいたら熊避けスプレーがベストらしい。賑やかな一ノ越山荘に到着。多くが登る雄山を尻目に、右折し五色ヶ原山荘を目指す。空は雲に覆われ、稜線はガスで隠れており残念だ。気象観測の富山大学立山施設に到着。眼前の雄大な岩山の龍王岳頂上には豆粒の様な登山者が見え隠れする。鬼岳の巻道を下り獅子岳の頂上に到着。下りはハシゴもあり、慎重に下山して



いく。下り切ると伝説のザラ峠である。残念ながらガスっており、待望の溪谷は見られなかった。五色ヶ原山荘を目指して最後の登りです。途中何キロにも亘って笹やハイマツの枝払いがされていて大変歩きやすい。やっと木道が現れた。五色ヶ原の大草原が眼前に広がっているはずだが、全く見えない。暫くすると突然目の前に山荘が現れ“やった～！”山荘では草刈機が5台並んでいる。感謝！感謝！

※五色ヶ原や弥陀ヶ原は、昔の刈込池付近での噴火による溶岩流でできた溶岩台地であり、立山カルデラは、松尾峠、天狗岳、浄土山、鬼岳、獅子岳、鳶岳等が外輪山として湯川谷を取り囲んでいる。

※佐々成政のさらさら越え：富山城主佐々成政は、本能寺の変の後の織田家の跡目争いで徳川側に付いた結果、秀吉側の前田と上杉から攻略されたため、1584年12月豪雪の中、家来60名を引き連れ、ザラ峠を越えて浜松の家康の援軍を頼みに行くが、家康に余裕はなく拒絶。あえなく引き返すが、雪崩等で帰還者は半数以下となっており。その後あえなく秀吉の軍門に下る。

(4日目：8/19) 4時から内蔵助山荘を目指して出発する。5時頃には夜も明け、稜線やモルゲンロートがくっきり見えて爽快である。ザラ峠では待望の急峻な溪谷が良く見え、成政一行の難行苦行が偲ばれる。獅子岳への登りでは背後に雄大な薬師岳が、はるか彼方に笠ヶ岳・槍ヶ岳が浮かんでいる。左手には紺碧の黒部湖に見とれてしまう。鬼岳を過ぎて富山大学立山施設に到着。左折して浄土山に向かう。死後



の極楽浄土を願って合掌！一ノ越山荘で小休止の後、難関の雄山へ出発。急な岩稜を上り1時間後に頂上の一等三角点に到着。ここで高島さんが雄山神社峰本社で祈祷の間、社務所前で待機中にヘリコプターの飛来のため避難の指示があった。砂塵や小石が舞うため危険（人が舞う時もあるとか??）。祈祷後、大汝山に向かう。頂上では小さな山名板があるのみ。立山連峰最高峰だが、立山三山に入っていないからかも？富士ノ折立では山頂がガスに包まれ全く見えない為、登頂を諦め真砂岳に向かう。下りの途中で左手に内蔵助カールが見えてくる。このカールには氷河と認定された内蔵助氷河があり、年間数センチ移動しているそうだ。厳冬期には30 mの積雪があり吹き溜まりも重なり氷河となっている。真砂岳は、岩稜帯が多い立山連峰には珍しく頂上は砂が多く、不思議な山である。稜線にはケルンが林立している。ようやく終着点



の内蔵助山荘に到着した。入口で雷鳥がお出迎え。ちなみに山荘の名前は、佐々内蔵助成政が由来との事である。この名物なめこ汁はうまかった！8月中旬を過ぎてもリンドウ、トリカブト、アザミ等の高山植物に癒された山行でした。

リーダーの高島さんには急な予定変更で山小屋のキャンセル・変更、富山のホテル手配、アルペンルートの手配や山行ルート案内、帰路のJR切符の変更等すべてに亘ってお世話になりありがとうございました。

◆折立登山口“熊”体験談(17日)

島谷

台風7号の影響で関東地方では交通網のみだれがある中、私達は夜行バスで順調に富山に着き、小雨の中、折立登山口を出発しました。30分後の小休憩時にザックを下ろし少し食べ物を口にしてザックを担ごうとしたところ「熊おるで」の声。静かに振り向くと小熊が数メートル先で土をかいていました。そのままザックを持たずに後ずさりして離れると、のっそりとザックに近づいてクンクンして10kgザックを顎でひっぱって山の中へ消えました。その間1分もなかった様な気がします。私のピンクザックよりも小さいくらい的小熊ですが、到底私達がかなう相手ではないと思い知りました。ザックが、私と他の登山者の身代わりになってくれたんだと自分に言い聞かせています。

反省としては「自分が他の登山者よりも熊に気づくのが遅かった」ことです。登り下りの登山者が行きかう道で、熊が登山道にまで出てくるとまでは思いませんでした。ザックを置いて後ずさりしたことは、とても残念ですが、やはり最善なことだったと思います。ザックを持ちあげる動きが子熊をさらに刺激して小熊がザックについて来ていたかも、また親熊が現れたかもしれません。

下山中「大丈夫ですか？」と何度も私の心情をいたわってくれる登山者、そして富山駅まで一緒に引き返してくれたメンバーに感謝しかありません。下山後は、警察・山小屋・会長へ3人が手分けして連絡しました。なかなか出来ない経験をした夏でした。

◆夏山②コース山行総括

高島

当初の計画では、山小屋4泊のロングコースでした。去年経験した白峰三山の縦走をイメージしたら、もう一泊追加の山小屋泊に挑戦してみようと考えました。

ところが、初日のアクシデントにより、急遽計画を練り直す事になりました。幸い、島谷リーダーがエスケープルートを二箇所作って下さっていました。山行計画を作る際、エスケープルートの作成は、いかに大切かが分かりました。今回、この二箇所のエスケープルートを利用する事になったのですから。計画を練り直すにしても、現地で地形図と概念図とが無ければ、スマホの地図だけでは、不安で歩けません。そして、変更後の登山届を提出していない事に気付き、山と自然ネットワークコンパスで前夜に提出し、行動時間の予測が出来ました。それでも、自分は薬師岳の方しか調べていなくて、今回の立山三山コースは、島谷リーダー任せだったので、ドキドキ不安の中、室堂を出発しました。

五色ヶ原山荘を予約しているので、何が何でもそこまで歩かなければなりません。また、天

気予報によると、15時頃から雨。龍王岳、鬼岳、獅子岳と恐い名前の山を縦走するので覚悟はしていましたが、足場のゴロゴロ岩、梯子、鎖、急登と四拍子揃っていました。

それでも、30分ごとに休憩を取り、必ず水分とレーションでの栄養補給をすると、疲れが取れてまた歩き出せるのです。そして、次の目的地を2人で明確にし、頑張ろう！と励まし合いました。五色ヶ原は私が行って見たかった場所なので、お花は終わり頃でしたが満足感でいっぱいでした。

翌日は、またあの獅子、鬼、龍の山を越えなければ内蔵助山荘に着きません。午前4時出発で涼しい気温の元、晴天の見晴らしの良い雄大な山々を見ながら一の越山荘まで歩いて来ました。ここで、仕切り直しと午前9:30でしたが宿の昼弁当を食べることにしました。



雄山までは厳しい急登でしたが、何とか頑張り、10:30頃からはガスが下からモクモク。

本当に山登りは、午前中が勝負です。ガスガスの中、大汝山、富士ノ折立、真砂岳と進みましたが、真砂岳への稜線辺りでガスが切れ、内蔵助山荘の赤い屋根が見えました。

内蔵助山荘では、体が二人共かなり疲れて、翌日別山に登る元気がなく、私も岩場歩きの緊張感にお腹いっぱい、大走りのエスケープルートを選択しました。横目で、雄大な別山をあきらめるのは残念でしたが、無理は禁物。歩く集中力、緊張感、山小屋での熟睡時間の足りなさで、山小屋2泊～3泊が、丁度余裕を持って楽しめる事が分かりました。

大走りで雷鳥沢キャンプ場へ下山した為、心は軽く、体も楽で、時間にも余裕ができ、早朝の全景色を堪能し、立山をあとにすることが出来ました。

島谷リーダーには、大変怖い災難でしたが、折立登山口を歩いた誰かが遭遇した確率の問題で、今後、どこの山でも熊鈴、笛、熊スプレーは必需品となります。島谷リーダーのザックが身代わりとなって、私達が無事であった事に感謝致します。

会長様はじめ、ご心配をおかけしました皆様にお詫び申し上げます。



■夏山登山③ 奥大日岳

<ゆっくりリズム>

●日 程：8月22日(木)～24日(土)

●参加者：L藤原(千) SL澤田(律) 岡田(淳) 中村 平石 待場

●行動記録：雷鳥荘 7:04 発～テント場(7:26 着)7:28 発～新室堂乗越(8:22 着)8:32 発～室堂乗越(8:49 着)8:58 発～奥大日岳(11:06 着)11:35 発～室堂乗越手前(12:00 着)12:30 発～新室堂乗越(14:30 着)14:40 発～テント場(15:16 着)15:25 発～雷鳥荘(16:01 着)

◆奥大日岳をピストン登山

中村

連泊した雷鳥荘の展望風呂はまさに山のいで湯。24時間入浴可でかけ流しのやや白濁した湯である。正面の大きなガラス張りから、湯船に浸っていながらも、地獄谷の先に、奥大日岳がそびえているのが見える。

2日目は、その奥大日岳ピストン登山をした。気分は夏山だったが、山はすでに秋山。トリカブトにリンドウはあざやかに紫色。ブルーベリーにキイチゴも十分熟していた(味見済み)。チングルマの綿毛はどこまで広がっているのか? 群落のスケールの大きさにびっくり。稜線に出ると、右手には雄々しい剣岳。左手にはたおやかな薬師岳。なんとも贅沢な稜線歩きだった。下り道は登り以上に厳しく、6名で励ましながら、頑張っ歩き通すことができた。夜の帳がおりると、満天の星空。自宅では、すぐに北斗七星くらい見つけることができるのに、この夜見つけた星座は、Wのカシオペア座のみ。あまりに数多くの星が見えすぎて・・・さっぱり?



1日目は、立山を開山したといわれている有頼少年が祭られている玉殿岩屋に行った。崖を下った岩屋に石像や祠が祀られてあった。岩屋は板状節理が見られ堂平が溶岩台地でできていることがよくわかった。

最終日は、弥陀ヶ原湿原を散策。富山県観光ボランティアの方が、湿原の案内をしてくださり、餓鬼の田(地塘)の変遷を教わった。また、外来種であろう植物を除去する活動も行われていた。大日平と共にラムサール条約に登録されているらしく、地域の皆さんの地元愛で守られていると思った。

JRから電車でケーブルカーそしてバスと、乗り継ぎが多い中、待ち時間のロスなく段取りしていただいた、リーダーに感謝です。また、ふんわりした時間を過ごすことができ、メンバーの皆様にも感謝です。



■夏山登山④ 立山三山～大日岳～称名滝 縦走

●日 程：8月21日(水)～24日(土)

●参加者：L野村 SL須増 木村 笹木 瀧原 春本 三木(悦)

●行動記録：

(21日)：室堂ターミナル 14:30 発～ミクリガ池(14:35 着)～エンマ台(14:50 着)～
雷鳥沢ヒュッテ(15:45 着)

(22日)：雷鳥沢ヒュッテ 5:30 発～分岐(6:40 着)～一ノ越(7:50 着)8:05 発～雄山神社
(9:05 着)10:10 発～大汝山(10:30 着)10:40 発～富士の折立(11:00 着)～大走り分
岐(11:45 着)～真砂岳(11:55 着)12:10 発～劔御前小舎(13:35 着)14:00 発～雷鳥
沢ヒュッテ(15:20 着)

(23日)：雷鳥沢ヒュッテ 5:30 発～新室堂乗越(6:45 着)6:55 発～奥大日岳(9:05 着)9:25 発
～七福園(11:35 着)11:40 発～大日小屋(12:00 着)12:25 発～大日岳(12:50
着)13:00 発～大日小屋(13:20 着)

(24日)：大日小屋 5:30 発～大日平山荘(8:00 着)8:35 発～牛の首(9:45 着)～大日岳登山口
(10:55 着)～称名滝(11:10 着)～称名滝バス停(12:00 着)13:10 発・・・

◆見どころ満載 立山・大日岳縦走

春本

「た～てや～ま～に～♪両(りよ～)の掌(て)合わせ～」成世昌平・はぐれコキリコから
日本の三霊山の蘆峯寺の曼陀羅信仰の山々へ行き、擬死体験をして地獄・極楽浄土を渡り歩
き無事下山することで再生を意味します。

出発前は登山指数◎とかだったのが初めはガスこそ出ただけで、すこぶる好天に恵まれた山
行でした。高価な旅費を払い天気有加減で天国と地獄となりえます。

お盆を過ぎた21日山小屋までのアクセスは新幹線・山岳電車・ケーブルカー・高原バスを
乗り継ぎ対岸の称名滝観ながら労せず標高2450mの室堂平！

涼を求めた夏山、ケーブルカー運転士に聞くと例年より暑いそう、標高の高い美女平の駅で
もクーラーかかっていた。

このルートは四回目で、小学生時代長野からのバス内では寝てしまい滝を見逃したり、ガ
スってなにも見えなかったりとだったのが、20代に撮った写真の立山バックは濃い緑薄緑の
快晴写真は今でも部屋に飾っている。

終点の室堂平手前は雪の大谷と云う20m近く雪だまり、バスとの写真が有名だがこの時期は
まるでなくて世界的にも珍しい。

エンマ台降りていく急階段で1斑のパーティと会う、相当お疲れだったみたいで自身も明日
の想像が察するに値する。

宿の雷鳥ヒュッテ南側の外観がみすばらしく見えていたが、独り夜中の三時頃まで三回の風
呂・効能の良さげな甘酒の様な外湯に大満足。

立山駅からの移動距離26km、4時間、上昇量2,072m歩行距離時間は多少のみ。

2日目、ストレッチ後にキャンプ場まで下り少し迷ったが一ノ越へ向
かう途中、先頭のリーダーが「雷鳥がおる」「逃げへん弱とー」皆が写
真を撮った後そそくさと茂みの中へ、朝一の雷鳥ショータイムでした。





山と高原地図ですと一から五の越まで祠があると云う、急登を南無阿弥陀仏。ぶつぶつ唱えながら雄山の頂上へ、ここでの富士白山と三霊山を期待したのだが雲の中にいるので観えない。自身は遠慮したがメンバーは祈祷に参加、いろいろ話が聞けて鈴も貰えてご満悦。(自身は祠までお金を払わないと行けないと解釈した)

ゴロゴロ岩の大汝山頂上は三人がアタックして写真、富士ノ折立もガスって素通りし下から見上げた大走りの起点からは砂利道になり真砂岳で休憩する。

雪渓は氷河に認定された「内蔵助雪渓」先を見ると別山が見えてくる。今日も泊まる雷鳥ヒュッテから離れつつ稜線を進むと剣御前小屋までくる、結構疲れたが雷鳥坂を一時間半の降りがある、下を見ると室堂平が甲子園の様に見えてもっと大きい縁を半周したのではと思う。今夜も温泉に浸かって英気を養おうっと！

本日の動植物はR鳥とチングルマ・etc 長時間の歩きでも興味は尽きない。

二日目歩行 約10時間、10km、総上昇量1,044m、最高高度3014m(大汝山山頂は怖くて立てなかったため マイナスm)

三日目、太陽が主役の晴れ渡っていた、山小屋が慣れたのかぐっすり寝れました。

さてさて今日の行程はメインであり誰もが初めてのコースらしい、前衛峰である奥大日岳を目指す剣岳の大展望だ！ 途中薬師岳の全容とその先のきれいな円錐の笠ヶ岳穂高連峰槍ヶ岳まで写真スポットだ。

徐々にきつくなる登りは立山の岩道から木々の道や溶岩の一枚岩、土の池塘やらで生命観がある。一服時に5~60%谷斜面で黒いものが居る、「クマがおる！」思わず叫んだ。距離があるので安心しての観察だったが思ったより動きが早く木々を揺さぶる力も相当だ。



山頂に近づくにつれ剣の大きさが大きく見える、針山に例えられ難攻不落の山だ。

別山からの前剣を得て、ゴジラの背びれが一番近くで観られて感無量。鋭い岩峰チンネは観るもので自身は登る山ではないと感じる。

日本で言えば南が表だが、ここでは北から見たほうが表で能登雨晴海岸から観る立山連峰の迫力、常願寺川をさかのぼり大日寺から称名川へと曼陀羅の図でみる地獄絵図を想像する。ここ室堂乗越から七福園の奇妙な岩、弥陀ヶ原・大日平までの切れ込んだ溪谷と写真を撮らずにはいられないV字谷の険しさ高さです。

もう飽きることのない景色、植生、地形、色とりどりの変化を楽しめますが、大日小屋が見えてお腹の不調のリーダーがほっとする、初日は有毒火山ガス、二日目は山頂にかかる霧ガス、今日は腸内ガスに悩ませるか？

ここ大日小屋はランプの小屋でロマンチックな雰囲気がよく、夕方の子牛程もある大きな熊ショーも動画に収められた。小屋で加西市の松末さんとお話した、会員も知合いが居る孤高の山男で御年八十代で、車で来て大日登山口から明日は内蔵助小屋から薬師縦走して折立へ至

るそう、自身の憧れの御人だ。(翌々日豪雨が心配…)

本日の動植物はKマ2回、タテヤマリンドウ・ハクサンイチゲ・etc

本日の歩行時間 9.50時間、距離 8.02km、総昇降量 726m

最終日は大日小屋から急な 1.500m下りが続きます、先日休業した大日平小屋の左手に、不動の滝を観えた。



木道があり細尾根あり梯子ロープ、牛ノ首からは晴れててドライにかかわらず滑りやすく気を抜けません。(帰宅後に骨折してヘリで運ばれた報道)もありでした。

この辺りは景観が無く沢の音がするのになかなか川が見えませんが、急に表れた車道に出た時はほっとしました。これで山歩きは終了し、皆無事で何より。最終日の歩行内容は終了忘れて記録不能 ちなみに消費カロリー6,008kcal 植生はダケカンバ。

左に日本一の落差の滝、称名の滝を見て水しぶきミストでクールダウンしました。称名滝の由来は、「南無阿弥陀仏」と称名念仏を唱えている様に聞こえるから、降雨時は隣にハンノキ滝(別名阿吽・ネハン)が現れるらしく雨後でなく少し残念。

特に今日は日差しを浴びて陽に焼け、水分を欲した時のかき氷は絶品。バスターミナル二階に地形の成り立ち展示があり、富山湾海底から立山頂上まで 4,000mの高低差で、海底林・火山・氷河この先の圧巻の悪城壁と大地の歴史が見て取れた。

立山駅までのバスのアナウンスで高さ 500m総延長 2kmの悪城の壁は圧巻でその続きに道路がある、自然に対峙する人工物もすごい。バス道に猿も横切る。

ギリギリ間に合ったグリーンビュー立山の日帰り温泉は肌に優しく泉質はローションを塗ったようで髭を剃ってしまいました。(帰宅後に耳から顔まで一皮むける)

この度は富山県人の誇る霊山立山、麓の御寺から雄山の神社と神仏一体となり、仏教用語の山々、後ろに<如来>付けるとお馴染みの阿弥陀・大日・薬師・ニョライ等々や、極楽山は無いけれど浄土山、沸騰の地獄・血の池・冷たそうなみくりが池といにしへの伝わる観点からも得るものがいっぱいでした。

振り返ってもいいことばかり、しいて言うならば大日岳の眺望が真っ白、縦走路の富士の折立・別山もガスの中だったが欲張りと思っている。今度は紅葉が観たくなった。天気よし、コースよし、特に立山と室堂、剣の色よし、人・動植物の出会いよし、温泉よしでL、SL、発案者よし、それを選んだメンバー自身は幸せ者。

♪は～れのさんさは🎵デデレコ・デン♪



■苗場山と秘湯赤湯温泉

●日 程：9月6日(金)～8日(日)

●参加者：L三木(悦) SL上田 尾内 尾越 臼井 木村 瀧原 田羅間 村上

●行動記録：

(7日)：ホテル5:00発(TAX)―祓川登山口(5:40着)5:55発～(6:00着)6:10発(バス)―リフト乗り場(6:15着)6:20発―リフト降り場(6:30着)～下ノ芝(6:40着)6:45発～中の芝(7:35着)7:45発～神楽ヶ峰(8:35着)8:40発～雷清水(9:00着)9:05発～苗場山(10:40着)10:50発～自然体験交流センター(10:55着)11:15発～昌次新道下降点(11:40着)12:00発～深穴岩(12:50着)12:58発～フクベノ平(14:20着)14:30発～赤倉分岐(16:17着)16:30発～赤湯温泉山口館(16:55着)

(8日)：赤湯温泉山口館7:40発～見返り松(8:35着)8:45発～鷹巣峠(9:10着)9:15発～棒沢橋(9:50着)10:07発～林道ゲート(10:35着)～小日橋(11:00着)11:05発(TAX)―越後湯沢駅(12:00着)

◆苗場山から秘湯赤湯温泉へ、2泊3日の山旅

上田

9月6日(金)越後湯沢へ

それぞれ姫路、西明石、新神戸で乗車、今回の参加者は9名、東京から上越新幹線で越後湯沢駅で下車、ホテルの車に迎えてもらって湯沢東映ホテルに宿泊、広い広い山の見えない関東平野を通って山に囲まれた越後湯沢まで5時間半ほどの新幹線の旅で一日が終わる。

湯沢町は新潟県の最南端の町で、苗場山や谷川岳など2000m級の山々の連なる町で首都圏から近いスキーリゾートでもあり温泉地でもある。だから山肌にはいたるところにスキーゲレンデが見えるし、山あいにはほとんど車の止まっていない大きな駐車場やホテルが建っている。新潟は米どころ、湯沢町の隣は南魚沼市でコシヒカリ栽培の発祥地、駅の売店にはコシヒカリの新米が1kg1000円超で並んでいた。



9月7日(土)登りは苦しく、山上は楽園、下りは地獄、赤湯温泉にたどりつく。

ホテルを5時出発、タクシーとリフトで1700m近くまで押し上げてもらい6時半歩きはじめ10分足らずの下ノ芝で体制をととのえる。苗場山へのコースは新潟側と長野側からいくつかのコースがあるが今日は新潟側の祓川コースを登り、赤湯温泉に下るコースを取る。コースタイムの単純計算では登り3時間、下り3時間半ほどだが私たちにはずいぶん手強いもの

だった。

下ノ芝と苗場山山頂とは標高差450m程だが、神楽ヶ峰からの150m程の下りがあるので600m程登ることになる。中の芝、上の芝とたどり神楽ヶ峰に8時半、中の芝では大きく平標山(1983m)が見え、真っ赤になったオオカメノキの実、登山道脇に咲くリンドウを見ながら初秋の山道を登る。

神楽ヶ峰からは雲尾坂の急登が見える、点々と登山者がたどっている、苗場山が「簡単には

登らせないぞ」と云っているようだ。

富士見坂を下る、途中雷清水でのどをうるおす、下りきると山頂の一角に着く雲尾坂の300mの急登、苦しい登りになるが、一步一步足をあげていけば必ず山頂に立てるのが山登りのいいところだ。1時間あまり頑張っただけで山頂に着いた。順調だ。

苗場山は美ヶ原や霧ヶ峰と同様のアスピーテ型（楕状）火山、南北4km、東西1kmの台地で、そこに湿原が広がり無数の池塘があり、田に苗を植えたように見えると云うのが山名の由来となっている。だから「山頂」と云える場所はなく、山頂ヒュッテのそばに立っている「苗場山山頂」の標柱が山頂なのだ。私たちもそこで集合写真を撮り、それぞれ思い思いのポーズで写真を撮った。

「苗場山さん、私たちがここに立つのは本当は去年の8月だったのです。唯一残っている夜行列車のサンライズに乗るため姫路駅に行く『運行停止』になって泣く泣く帰りました。それで一年思い続けてやっとあなたの山頂に立てました。今年も天気が心配だったのです、あなたもそれに答えていい天気を用意してくれましたね。あなたの自慢の広い台地や池塘も見せてくれました。ありがとう。」

山頂で1時間程を過ごして赤湯温泉をめざして出発する。しばらくは池塘を見ながら湿原につけられた木道に行く、ここは楽々だがそれが終わるといきなり急傾斜のクサリ場になる、リーダーのサポートが必要などころもある。急傾斜の斜面の靴の巾より細い道、ロープで下るところもある、これが延々とつづく、膝に不安のある私には最も難儀するところだ。深穴岩をくだりフクベノ平は山頂台地から下ってきてはじめて安心して休めるとこ



ろ、距離的にはまだ半分ほどだが時間は3時間を超えているし難路はまだ続く。極め付きはサゴイ沢を渡る鉄橋の取り付け、木の根に引っ掛かった流木の上を渡る感じ、鉄橋を渡ると赤倉山分岐までの登り、疲れた体にムチ打たれるようだった。最後は清津川の川床の道、これも大きな岩に消えかけたペンキ印があるだけ、増水していたらどうなるんだ。疲労困憊して赤湯温泉山口館にたどり着いた、17時になっていた。

食事の時、宿のおかみさんが楽しそうに、「主人は、『この道は悪路と云う点では3本の指に入る』と云っています」と云う、3本じゃないよ、一番だよ。

9月8日（日）3時間余り歩いて小日橋へ、越後湯沢駅で入浴・食事、新幹線で無事帰る。昨夜は汗をながすために風呂に入り、夕食を食べて寝るのが精いっぱいだった。4時に目が覚めた、難儀して着いた秘湯だからと風呂へ行く。赤湯温泉山口館には薬師の湯、玉子の湯、少し離れたところに青の湯の三つの露天風呂がある。昨夜は薬師の湯に入った。ひとり占めで薬師の湯と玉子の湯に入る。

7時40分赤湯温泉を出発、鷹巣峠まで1時間半、昨日と同様歩きにくい登り、峠からは尾根に乗って下る道になり少し歩きやすくなった。山口館には小学低学年と思える子もいたし女性も泊まっていた、よくこんな道を登ったものだと思う。最後は林道歩きで3時間余りで清津川に架かる小日橋を渡る。ようやく終わった。雨にも合わず無事に下山した。タクシーで越後湯沢駅へ、駅に風呂がある、食事もして「とき」と「ひかり」を乗りついで21時頃に帰宅。くたびれたが65座目の100名山に登り満足、みなさん、お世話になりました。

◆2 度目の苗場山は最高難度の山行

田羅間

昨年、真夜中に途中の駅から引き返したリベンジの苗場山山行。1 日目新幹線東京回りで越後湯沢。1 泊し2 日目タクシーで登山口、リフトで運んでもらい、1 時間程登りをカット、ラクチン。だが、そこからの登りは道はゴロゴロ石の道、急登、アップダウンありの登山道。喘ぎつつ山頂へ。頂上台地は広々として風も通り、眺めも素晴らしかった。だが、赤湯温泉



へ下る道は激下り。下りはじめてすぐ鎖とロープ。落ちたらどこまで行くの？と思うほどキレ落ちていた。その後もやせて細くなった登山道、斜めになっていて注意しないと滑り落ちそうな道。また、下っていくのに急登有の道。しかも横は草ばかりで掴める木がなく歩きにくい登山道。

「フクベノ平」からはそれまでと比べて少しは楽になると思いきや、まだまだ同様の激下り、上りの繰り返し。しかも道標が消えかけていて赤湯まで 30 分、ところが 30 分歩いた所に後 1 時間と書

かれていた。エエッー！！その後も激下り、後少しの所では急登。滑ると谷に落ちる細い道。あえぎつつやっと登る。着いた温泉は秘湯。歩いてしか行けない清流の横の温泉。やっと私の高い山の山登りも終わった。少し寂しさも感じた。と思ったのは間違い！3 日目最後の日の下りも大変だった。子供も宿に来ていたので楽勝と思いきやきつい登り下り、小日橋でタクシーに乗り込んでやっと終わったと実感。

私の 10 年余りの山行の中で最後にして最高難度の山でした。リーダーはじめ同行した皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

■中山道 馬籠から妻籠

<ゆっくりリズム山行>

●日 程：9 月 7 日(土)～8 日(日)

●参加者：L 矢根 SL 藤原 阿部 泉 小田 敷田 橋本(万) 春本 平石 松田 安田 吉村

●行動記録：

(7 日)：中津川駅 14:15 発～馬籠宿(14:40 着)15:05 発～馬籠宿散策(15:40 着)16:30 発
白木屋(16:55 着)

(8 日)：白木屋 8:15 発～馬籠峠(9:20 着)9:30 発～男滝、女滝(10:00 着)10:15 発～
妻籠宿(12:10 着)13:44 発～南木曾駅(13:53 着)

◆岐阜県・馬籠宿から長野県・妻籠宿への峠越え

泉

昨年の 11 月 2 日に怪我をして、なかなか重いザックを背負う許しが出ずに 4 月頃から少しずつ土曜トレに参加でき約 10 ヶ月振りの泊山行参加です。ゆっくりリズムで宿場を一つ峠越えする山行案内を見て飛びつき申し込みました。出来るだけザックを軽くしたかったのですが結局 7kg 位になってました。初日は姫路発 10:11 ひかりで名古屋へ岐阜中津川まで特急しなのを利用して 14 時集合に 1 時間余り前に着きました。中津川名産の栗きんとんがズラリ並んだ名産店でお昼ご飯を調達し休憩所で食べて済ませました。集合場所駅前で青春きっぷ 18 利用



の皆さんと合流、バス停まで移動し馬籠宿行のバスに運賃 570 円を準備して乗り込みました。坂道をくねくねと上がり始めた頃から気分が悪くなり“早く着いて”と心の中で叫んでました。バスを降り大きく息を吸ってホッとした。今夜の宿にザックを預け身軽になって馬籠宿の散策に出かけました、石畳が続く昔ながらの建物の歴史の面影が濃く残っており風情ある町並みです。良い香りの五平餅に手が出そうでしたが、夕飯に出るので買わないでください！との宿のご主人の言い付けを守り歩く、一里塚・芭蕉や正岡子規の句碑・島崎藤村記念館・大名の宿であった本陣の資料館どれをとっても歴史を感じます。もうひといき見晴台まで上がり 2191m の恵那山を望む広場で休憩、明日の登り口を確認し宿までは各自で戻りますが途中で茶屋(よもぎや)を見つけ中へ、既にグループの数人が席に居られて冷たい甘酒や梅ソーダでほっこり。宿に戻り夕食までに入浴を済ませたりお喋りしたり、食事はどれも美味しくお約束通り五平餅も香ばしくて満腹でした。二人組の部屋に分かれ其々夜を過ごしました。翌朝は 5 時過ぎから動く気配がして朝の散歩に行ったり、皆さん早いです。7 時の朝食を済ませ出発準備をしてストレッチ・宿前の記念撮影と段取り良く済ませ予定より早めの出発です。昨日は身軽に歩いた石畳の坂道を今日はザックを背負って汗をかきかき歩き、恵那山を望む広場で記念写真。そこから馬籠峠に向けて標高

200m ほど上り坂が続きます。何度か車道と交差しながら山道を歩き標高 790m の馬籠峠に到着、10 分休憩して【熊注意】の看板を横目に標高 430m の妻籠宿に向け出発。所々に小さな釣鐘がぶら下げてあり大きな音を鳴らして熊よけしながら林の中を進みました。途中で滝まで下り男滝と女滝でマイナスイオンを一杯吸い元気をもらい再出発。途中、峠茶屋だった建物で冷たいお茶をご馳走になり休憩させてもらいました。妻籠宿の入り口に差掛かった頃、正午でした。時代劇にありそうな重要伝統的建造物群保存地区で地域の皆さんが協力して保存されているのだと感じました。メンバーの一人が 40 年前のレトロな写真を手に変わらず同じ場所に立ち今の写真を撮っておられました、変わらぬ風景に満足そうな笑みを浮かべておられたのが印象的でした。路線バスに乗り南木曾駅まで行き電車の待ち合わせ時間を利用して反省会を済ませ、2 両の電車に乗り込みました名古屋で青春 18 きっぷ組と新幹線組に分かれ帰路につきました。良い天気にもまれ汗だくでしたが、ゆったりと時間を取ってもらい心癒された中山道の旅でした。リーダーさん皆さんありがとうございました。

